

研修名 第1回 京丹後市自主研修会

期日 平成27年6月27日(土) 13:30~16:00

講演 「この頃感じる子どもの育ちとその保育・保護者のかかわり」
～子ども時代を子どもらしく・・・～

講師 京都基督教福祉会 児童発達支援センター
洛西愛育園 高木 恵子 氏

1) 講演要旨

① はじめに

小学校で驚く子どもの姿・・・姿勢が保持できない、絵が幼い、集中力の欠如、そこから感じる、幼児期に育てたいこと。

② 子どもに異変が起きている？進化？

- ・一昔前と比べ、子どもの成長発達が早くなっている。首の座り、歩き始めの時期。寝返りやずり這いをしない、聞く力が弱い、待てない、食器を支えない、など。また、子ども自身に力がついていないことをさせようとしているケースもある。例えば自分で座れない子どもを座らせる。そのためうつ伏せを嫌がったり、座ったまま動かない子どもになる。指先が発達していないのに箸を持たせ、にぎり箸になってしまっているなど、子どものもっている力以上のことをさせるのではなく、今もっている力でできることを捉え、させていくことが大事なのではないか。
- ・目、手、足など体全部の動きが不器用な子どもが多くなっている。舌の動きが不十分のため、発音不明瞭になる、など。
その子どもの弱い部分の発達を促していけるような遊びを取り入れてあげること。

③ 保育の中に見られる気になる保育

- ・あるリトミック・・・指導のポイントをわかりやすく伝えてから実践する。年齢に合わせた指導をすることで、体のこまやかさも身についてくる。
- ・折り紙指導で「先生、先生」・・・自分の行動が全て先生に依存しており、子ども同士で学びあう（教えあう）ことを伝えていく。また個々に対応していくのではなく、自分でできるような手だてを用意してあげることが、丁寧な援助といえる。
- ・楽しくないフルーツバスケット・・・発達のアンバランスさはあるが、ルールなどを教えていくことは大切である。

- ・朝の会の入室に・・・集団に合わせた配慮、環境作りをしていくことが大切。
保育者がどこにポイントやねらいをもって保育の流れを作っていくか、また不必要なトラブルを避けるための配慮、流れをつくっていくことが大切である。

④ 時代の流れの中で保育も変わる

- ・「障害児」から「ちょっと気になる子ども達」特性をとらえ柔軟に対応すること
- ・「縦割り保育」と「横割り保育」メリットを生かした保育をしていくこと
- ・多様な子どもの姿に多様な保育を

⑤ 終わりに

豊かな保育とは？・・・発達支援とは？・・・

子どもの変化、家庭の変化を捉えながら、子どもを主人公にした保育をしていくこと。

2) 所感

現場の事例を交えながら、年齢別の発達段階をふまえた指導方法や言葉かけで変わる子どもの姿、食事の食べ方から見えてくるその子の弱さや課題、場に合わせた態度を身につけていくことの大切さ、など様々な話を聞くことができた。子どもの気になる点ばかりを課題としていくだけでなく、広い視野をもってさまざまな点から、有効な手立てを考えていくことの大切さを改めて感じた。生活や遊びのなかで、集団に合わせた配慮、環境づくりをしていくことはもちろん、どこにねらいをもって保育者がどのような援助や声掛けをしていくのか、一つひとつを大切にしながら保育をしていきたいと感じた。また、受け持つ子ども達の発達をしっかり捉え、必要な力を育てていきたい。

発達の遅れ、偏りを感じる子ども達に対し、特性をうのみにするのではなく、その子ども一人ひとりをしっかりと見たうえで、特性を理解していくこと。そのうえで困り感を減らしていくためにはどのような配慮が必要か、また、しっかりと課題をとらえて手立てをしていけるか、ということを経後の自分の保育の課題とし、日々取り組んでいきたい。

(記録 京丹後市立五箇保育所 森本 晶子)